



船頭のひとりごと



自然をこよなく愛するサラリーマン釣り師のきままな釣行記

vol.1 至福のひと時

碧い海、吹き抜ける爽やかな風、心地よく響く潮騒、日常のすべてを忘れられる時間がここにある。

たまに荒れ狂い、生命の危険さえ感じることもあるが、私はこの豊かな海が好きだ。

幼少の頃、父親に手を引かれて初めて訪れた海、そして魚釣りとの出会い。

海との触れ合いは、これからもずっと続いていくのだろう。

さて、「船頭のひとりごと」は、私の気ままな釣行記として綴っていければと考えています。

インターネットで魚釣りを検索すると、多くの方々の様々な釣行記を拝見することが出来ますので、夢のような海外での釣り、大型魚との格闘、また高度な技術的な話はそちらをご覧になって頂けると嬉しいです。

私自身は、ありきたりの日常の中にある非日常を綴っていこうと思います。

さて、初回となる今回は平成30年4月22日の釣行を書きたいと思います。

海況データは以下の通り。

◎山口県 特牛港

月齢 6.0 潮回り 小潮

干潮 7:15 21:43

満潮 2:36 14:00

4月中旬のこの時期は、海況も落ち着き出船できる日が増えてきます。

釣りものとしては、大型アジ、マダイ、ヒラマサ、メジ（ブリ）の他、様々な種類の魚が狙えます。

実は、昨日も釣りに行っていて、アジ、イサキ、チダイの数釣りを楽しんできました（但し、大型は出ませんでした）。

アジは抱卵しつつあり、食味も抜群、一番好きな魚です。



前日に釣ったアジ



前日のイサキとチダイ

さて、朝 5時00分、まだ薄暗い中、港に到着。

昨日の釣りの疲れも残る中、本日はジギングでヒラマサ狙いです。

ちょっと余談ですが、ジギングは体力的な負担が大きな釣りであり、

私は腰や膝を痛めてから数年間、この釣りから遠ざかっていました。

しかしながら、ここ最近はスロージギングというものが流行しており、

それなら出来そうだと再びチャレンジしています。

(しかし実際はスローではなく、残念ながらガチにやっつけてしまいます。)

出船準備を整え、5時20分に舳を解き出船。

今日は海況も穏やかなことから、角島沖の汐巻に向け船を走らせます。

港から少し船を走らせると、山の稜線が朝日を浴びて神秘的に染まっ

ています。

太陽が昇る直前、朱色に変わる間際の何とも言えない色合いが好きです。

太陽が顔を出し、船が神田岬を通過する頃、多くのカモメが船に併走して飛んできます。

これは、釣り人にとっては吉報。

海鳥が多くいるということは、小魚が多くいるということであり、

それをエサにする大型魚も集まってくるからです。

その後、角島の灯台横を通過し、航程約1時間で角島沖の汐巻へ到着。

すでに何隻かの漁船やプレジャーボートが釣りをスタートしています。

また、角島側を見ると、多くの船がこのポイントを目指しています。

今日は休日であり、かなりの数の船が集結することは間違いありません。

(本日は朝8時の時点で、目視できる範囲に約40隻の船がいました。)

私は南西側の船団に船を入れ、釣りをスタートさせました。



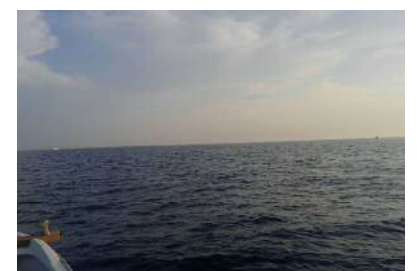
朝の薄暗い港



神秘的な日の出の前



小魚を狙うカモメ(別の日)



ポイントに到着

船はドテラで流します。よって、釣りが出来るのは、片舷だけです。
ドテラ流しとは、アンカーやスパンカーなどを使わず、風任せ、潮任せで、船を流して釣る方法です。

私は操船と魚探やGPSを見ながらの釣りになるので、同行の父親を船首側にポジショニングさせ、いざスタート。



ファーストヒットのヤズ太リ

午前6時20分。

最初は潮があまり効いて無いようなので、100gの軽めのセンターバランス系のメタルジグでスタートします。

期待に胸膨らませ、まずは1投…単にジグを真下に落とすだけです…。

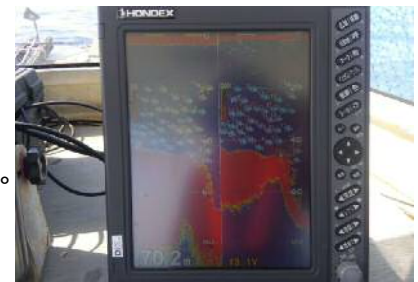
魚群探知機には、小魚の良い反応が出ています。

ジグが着底後、とりあえずスタンダードなワンピッチのショートジャークで様子見です。

軽やかにシャクリ上げること約10m、いきなりガツンとヒット。

ガッチリと合わせを入れて巻き上げに入ります。

さほどドラグ（魚の引きによって、ラインが出るようにする装置）も効かず事なく取りこんだのは、目測70cm、3kgちょっと超えのメジ（ヤズ太リ）でした。



魚群探知機の画面

沈黙の時間が長いことが多いこの釣りで、最初の一投目から当たるのは非常に縁起が良いとワクワク気分の第2投目、残念ながら空振り。以降、ジグをシャクれどシャクれど当たりは来ず。

ジグも色々と交換してみますが、音沙汰無し。

う～ん、どうしたものか…。

1投目で釣れたのだから、ジグとジャークパターンは合っているはず。



父親にもヒット

午前7時15分。

気分転換に流すルートを変え、水深70mから50mへ一気に浅くなる岩礁帯の斜面付近に船を流します。



7kgクラス

すると底から20m付近でズドンという引ったくるような当たり。
ガッチリと合わせを入れてから、巻き取りに入ります。
先ほどと同型と思いきや…、多少ドラグを出していきます。
何回か数メートルほど走られましたが、なんなくキャッチ。
今度は少しサイズアップして、85cm、7kgクラスのブリ（もどき）
でした。



85cm 7kg

気を良くして同じ所を攻めると、次は父親に70cmクラスがヒット。
取り込みの手助けのためネットを準備しようと、自分のジグを高速
巻きで回収していると、水面下約15m付近でヒット。
父親とダブルヒットで取り込んだのは、またまた70cmクラス。
う～ん、大きい魚はいずこへ、ヒラマサはどこだ…。
ちょっと悩みます。



連発です

午前8時20分、ドラマは突然訪れます。
同様なパターンに少し変化を加えていると、底から約20mで強烈な
当たり。
合わせを入れる間もなく、一気にラインが飛ぶように出て行きます。
ドラグ設定は、先の7kgクラスでも多少しかラインが出ないくらい
の強度です。



引きは楽しめますが…

これはヤバイ！ 既にラインは30m以上出されています。
要するに、水深より多くラインが出ているのです。
魚はさらに疾走します。
これ以上、走られると根ズレでラインブレイク（海底の岩礁でライン
が切れる）することを恐れ、手でスプールを止めに掛かります。
しかし、フルロックをすればラインが切れることから、魚の走りに
合わせて対応します。



ヒラマサは何処に…

そうこうして魚の動きが緩んだ瞬間、一気に巻き取りに入ります。
これから反撃と思い約2m程度巻いた時、またまた魚は疾走、
「ゴリゴリ」という感触の後、無情にもラインブレイクしました。
逃がした魚は大きいと言いますが、大きいから逃げるのだと思います。

あくまでも予想ですが、過去の経験から推定20kgオーバーのヒラマサ
とすることにしたいと思います。

その後も3kg～7kgのメジ～ブリ（もどき）を追加した、午前8時50分。
またまた、ドカンと一発きました。

今度は、先ほど逃がしたのよりも更にデカイ。

直感的にそう思った瞬間、「チーン」またまた逃げられました。

一瞬の出来事です。

多分、1秒～2秒だと思います。

その後も場所を変えたりしましたが、同サイズばかりなので、
これ以上釣っても仕方ないと、午前9時30分に釣り場を後にしました。
帰り際に、ヒラマサ狙いで魚礁を何カ所か叩いたのですが、当たりが
一回だけで結局この日はヒラマサの顔を見ることが出来ませんでした。
魚は12本ほどキープし、親戚や友達、ご近所に分配しました。
釣れた魚のコンディションは非常に良く、刺身に鎌の塩焼き、
あら炊きと非常に美味しく頂きました。

◎ 至福のひと時は…

私にとっての幸せな時間は、何も釣りをしている時だけではありません。

釣りの準備をしている最中や行き帰りの車の中で、好きな音楽に浸っている時は至福のひと時です。
釣りの記事に付け足す形になりますが、贅沢な時間に誘う音楽も今後少しずつ紹介していきたいと
思います。

今回ご紹介する曲は「GERALD ALBRIGHT」のアルバム「DREAM COME TRUE」から
「My,My,My」です。

このアルバムはお気に入りです、他にも素晴らしい曲が収録されており、彼の奏でるセクシーな
サクソフの音色は、心地良い時間を約束してくれます。

皆様は、どのような贅沢な時間を過ごされていますか？



またまたメジクラス…



私のファイトシーン…



ヒラマサが釣れない、困りました